

室山野・東福寺・東福寺野をつなぐ鍵層

鍵層となるもの

地層が連続していたことをとらえさせる時に重要なのは、特定のものを含む「鍵層」と呼ばれる層です。滑川市内では、この鍵層として黒っぽい火山砕屑物を含む凝灰岩層が有効です。露頭部分の黒っぽく見えるのは、東福寺野台地の県道沿いに見られる火山砕屑物です。この層は、東福寺野自然公園辺りから上市町の護摩堂にかけて分布しています。この鍵層を手掛かりに層の広がりについて学習できるのではないのでしょうか。



黒っぽい礫

開析台地

早月川の扇状地としてできた滑川市の中山間部は、その後の土地の隆起とともに早月川や高知川の浸食を受けて現在のような開析台地になりました。大日公園脇からは、室山野台地・東福寺台地・東福寺野台地を一望に見渡すことができます。この三つの台地のでき方を考えることで、大地の動きについてとらえることができます。



室山野台地から見た東福寺台地



大日公園付近から見た三つの台地